

シラバス作成要領

「鳥取大学におけるシラバス作成の基本方針」（令和3年11月12日教育支援委員会承認）に基づき、「シラバス作成要領」を次のように定めますので、これをもとに、シラバスの作成を行ってください。

1. 基本情報

「準備事項」「備考」については、必要に応じ、各授業担当教員が入力してください。

2. 詳細情報

(1) 担当教員所属・研究室

学生が質問や相談等のために教員を訪問する場合を想定し、教員の研究室など具体的に記入してください。また、学生にとって、場所が分かりにくい場合、建物名、フロアなどできるだけ詳細に記してください。

(良い例)

- ・〇〇学部棟、△階、□□研究室等

(悪い例)

- ・質問や相談があれば連絡してください

(2) オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生が授業担当教員のところに、事前予約なしに訪問してよい時間帯とされています。そのため、「具体的な曜日、時間帯等」を記入してください。また、少なくとも週一回以上設定してください。なお、教員はオフィスアワーの時間帯は、会議等の予定を入れず、指定した場所で待機してください。

(良い例)

- ・○曜日△時限
- ・○曜日午前中

(悪い例)

- ・電子メール又は電話等でアポイントをとること

(3) 担当教員への連絡方法

学生が教員へ連絡をする際に、学生、教員双方にとって最適な連絡手段（電子メールアドレス、電話番号）を記入してください。

(例)

- ・ (〇〇@tottori-u.ac.jp) へ連絡してください、件名に科目名・曜日・時限、本文に学生番号・氏名を必ず記載すること。
- ・ 質問等があればメールで対応する。質問受付用のメールアドレスを授業内で提示する(シラバスは公開されるためアドレスを公開したくない場合)。

3. 授業の目的と概要

当該科目の「内容」、「意義」、「目的」について記入します。当該科目の学問分野における位置づけなど、専門的知識に乏しい学生が授業の全体像を把握できるように記入してください。また、学生が理解できるよう、なるべく平易な言葉や言い回しを用いて具体的に記入してください。

4. キーワード

学生が授業の概要をイメージできるように、当該科目の内容に関わるキーワードを 3~5 語程度記入してください。取り上げるキーワードは、学生が理解できることを念頭に選んでください。

5. 到達目標

当該科目を受講したことによって、学生がどのような知識・能力等を修得できるかについて記述してください。とくに、学生が「〇〇が△△程度できるようになる」というイメージを抱けるよう、到達目標として具体的な能力とそのレベルを提示してください。

当該科目の特性によって、後述する、知識・理解の観点、技能の観点、態度等の観点から、真面目に受講した学生が「自分でも達成できそう」と想像できるような目標を設定するようにします。なお、各教育プログラムのディプロマ・ポリシー*との整合性にも留意するとともに、学生の自律的な学修を促すため、「学生を主語」とする表現になるよう記述してください。

その他、複数の到達目標がある場合、学生にとって分かり易く示すために、箇条書きで記すなどの工夫が必要です。様々な能力の到達度の表現としては以下のような例があります。

*学士課程は「卒業認定・学位授与の方針」、博士前期・修士課程及び博士後期課程・博士課程は「学位授与の方針」。

- ・ 知識・理解の観点：「説明できる」、「述べることができる」、「論じることができる」、「関連づけることができる」、「応用できる」、「適用できる」等
- ・ 技能の観点：「使用できる」、「実施できる」、「操作できる」等
- ・ 態度の観点：「討議できる」、「参加できる」等

(良い例)

- ・物理学実験Ⅰ：
 - ・それぞれの測定量から物理法則に基づき物理定数等を計算することができる。
 - ・実験をレポートにまとめ報告することができる。
 - ・同グループの学生と協力して実験を遂行することができる。

(悪い例)

- ・物理学実験Ⅰ：物理学の基礎的な実験を行い、自然科学における客観性と普遍性に関する知識を習得する。(客観性や普遍性など抽象的な用語が使用されている)

6. 他の科目との関連

当該科目を履修する上で、事前に履修すべき科目、また当該科目履修後に履修した方がよい科目など、当該科目との関連を有する科目等について関係性を具体的に分かり易く記述してください。

(良い例)

- ・法学Ⅲ：憲法、法学Ⅰ、法学Ⅱには、当科目の基礎知識が含まれているので必ず事前に履修してください。法哲学は、当科目履修後に履修すると、理解が深まります。

(悪い例)

- ・法学Ⅲ：関連する科目として、憲法、法学Ⅰ、法学Ⅱ、法哲学などがあります。

7. 教科書(テキスト)・参考書

教科書を使用する場合は書名、著者名、出版社、出版年、価格等を記述してください。教科書を使用せず、教員が資料を用意する場合、どのような形態(紙、データ)でどのようなタイミング(授業毎など)で配布するのか等できるだけ詳しく記述してください。

とくに、教科書・参考書を購入させる場合は、使用方法を明確にする必要があり、「教科書・参考書を購入したが、ほとんど使用されなかった」のような事態に至らないように十分に配慮してください。

8. 授業の形式

講義・演習・実験・ゼミ形式など、授業の形態について記述し、複数の形態を組み合わせで構成する場合は、その割合も記述してください。

(例) 講義(50%)と発表(プレゼンテーション)を含むグループ演習(50%)等

また、近年、教授方法の改善策として、学生の自律的学修姿勢確立のため教員から学生への一方的な講義にとどまらない双方向的授業が推奨されています。そのため授業の特性

に応じて、アクティブ・ラーニング*の手法を用いるなど、工夫が必要となります。

*教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。（新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）用語集（平成24年8月28日中央教育審議会）より抜粋

以下、アクティブ・ラーニングの手法を示します。

学習形態	受動的	能動的	能動的	能動的
主導形態	教員主導型	教員主導・講義 中心型	教員主導・講義 中心型	学生中心型
アクティブ・ラーニングの適用度	—	低	中～高	高
講義の方法	<ul style="list-style-type: none"> ●話し方の工夫 ●板書の工夫 ●スライド ●実物や映像、画像などの提示 	<ul style="list-style-type: none"> ●コメントシート ●小レポート、小テスト ●宿題（予習、復習） 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスカッション ●プレゼンテーション ●体験（実験、実習） 	<ul style="list-style-type: none"> ●協同、協調学習（グループワーク、ペアワーク） ●討論 ●PBL (Problem Based Learning)：課題解決型学習 ●フィールドワーク

※「溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習とパラダイムの転換』、東信堂、2014年」を基に作成（技法・戦略の一部を省略）

なお、障がいがあるなどの合理的配慮を必要とする学生は、情報を得ること、自己の思考や感情を表現すること、他者とのコミュニケーションをすることなどに問題を抱えている場合があります。当該科目について、授業準備や科目選択、支援の提供等のために必要な情報を可能な限りシラバスに記載することで、授業選択のミスマッチを防ぐとともに、適切な支援を提供することにも繋がります。

例えば、「授業の形式(ゼミ形式、講義形式、質疑応答を多く取り入れる授業)」「数式・図式を多く用いる授業」「ビデオなどの視聴覚教材を多く用いる授業」「外国語による授業」「グループディスカッションやフィールドワークを行う授業」であるか等。

9. 成績評価方法と基準

当該科目の「到達目標」に対する達成度をどのように測るかを示し、受講生が到達目標に達したかどうかを判定する方法の基準を明示してください。そのため以下のような視点を踏まえ、明確に記述する必要があります。

(1) 評価種別

平常点、小テスト、レポート、定期試験等、評価方法を記述します。なお出席点を評価に加えることはできません。

(2) 割合

複数の評価方法を用いて成績評価を行う場合は、それぞれの評価方法が全体に及ぼす割合について明示してください。

- (例) ・平常点 40% 小テスト 10% 定期試験 50%
・平常点 50% レポート 50%

(3) 成績評価基準

それぞれの評価方法の評価基準を明確に示します。例えば、レポートを評価に加える場合、レポートで課した課題をどのような基準で判定し、定期試験等も含め総合的にどのように判断するかについて記述してください。

平常点評価を行う場合、講義に対する学生の取り組み(講義での意見、提出された課題等)などを「客観的な評価基準」に基づき評価してください。なお、各教育プログラムの成績評価基準との整合性を保つことにも留意してください。

上記の「客観的な評価基準」を担保するために、ルーブリック評価(多面的評価)などの客観的な評価方法を取り入れることが推奨されています。ルーブリック評価については、別途マニュアルを配布する予定なので、これを参考にしてください。

(良い例)

- ・「△△の問題について、その原因と解決策を、具体例をあげて論述できる」ことをレポートの評価基準とする。

(悪い例)

- ・「レポートまたは試験を実施する」「担当者が総合的に評価する」(評価基準が不明確)

(4) その他（フィードバックなど）

提出された課題（試験・レポート等）に対するフィードバック（例：manaba で試験やレポート等の添削・返却をする）の方法についてできるだけ記述してください。学生に迅速で建設的なフィードバックを行うことで、学修成果がより定着するといわれます。

（記入例）

- ・提出されたレポート、課題等を採点し、コメントをつけて返却する。
- ・次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、レポート等を紹介する。
- ・授業終了後、全体的な講評、模範解答等をメール配信あるいは印刷配付する。

10. 担当教員からのメッセージ

学生が自律的に当該科目を履修するよう、学生を励ます、或いは鼓舞するような、メッセージを自由に記述してください。

（記入例）

- ・「コミュニケーション英語A」：実用的な英語を身につけ、国際的に活躍されることを期待しています。

11. 授業計画（コマ単位で記入できない科目：卒業研究や実習など）

卒業論文や実習等コマ単位で記入できない科目のみ、こちらで記入してください。

講義などコマ単位で記入できるものは、「16.」で記入してください。

（例）

卒業研究：関心のある問題を提起し、その解決に意欲を持って、以下を随時行います。

- ・大学で得られた知識を基本に、文献調査を行い知識と理解を深める。
- ・問題解決のための仮説を、教員や研究室等と議論を行いながらたてる。
- ・仮説立証のための実験計画をたて、実行する。
- ・実験結果をとりまとめ、仮説の立証の可否を検討する。
- ・追加修正の実験の検討を行う。
- ・論文としてとりまとめ、発表を行い評価を受ける。

小学校教育実習A：附属小学校での4週間の実習の概要は以下の通りです。

[導入段階]

講話の受講、授業観察、児童観察 等

朝の時間、給食時の指導、清掃指導、休み時間の指導 等

自由参観（他学級・他学年の授業観察）

〔実習段階〕 学習指導

全日指導（登下校時、学習指導、学級経営、学級管理などの学校生活全般）

自由参観（他学級・他学年の授業観察）

組別研究会（同学年・異学年合同研究会） 研究協議

附属幼稚園参観（幼稚園副園長講話）

〔整理・反省段階〕

反省・自己評価 実習録・指導案綴りのまとめ

1 2. 教育グランドデザインとの関連

本学においては、全学の教育目標として、教育グランドデザインを定めています。以下の中から、当該科目に該当する項目を記入してください。

- ・現代的教養（文化・社会・自然に関する幅広い知識）
- ・現代的教養（特定の専門分野に関する理解）
- ・現代的教養（論理的な課題探求と解決力）
- ・現代的教養（創造性に富む思考力）
- ・人間力（自律性に基づく実行力）
- ・人間力（多様な環境下での協働力）
- ・人間力（高い倫理観と市民としての社会性）

1 3. ディプロマ・ポリシーとの関連

当該科目を履修することで得られる能力等について、以下に示す全学のディプロマ・ポリシーの中から該当する項目を記入してください。

【学士課程】

1. 文化、社会、自然に関する幅広い知識や各専門分野に関する深い知識を有し、これを理解するとともに、知識獲得のための方法と技能を有している。
2. 論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力に基づき様々な諸課題を探究し解決を志向できる。
3. 地域・国際社会での将来の活動に興味・関心を持ち、主体的・継続的に学び、自らの人生を豊かにする生涯学習力を有している。
4. 健全な倫理観を有し、豊かなコミュニケーションをもとに他者と協働し実践する力を身につけている。

【修士・博士前期課程】

1. 広い視野と深い学識を有し、各専攻分野の専門的知識・技能を身につけ、高い研究遂行能力または高度な専門性が求められる職業に従事する能力を有している。
2. 高い倫理観を有し、人類、社会及び学術の発展に貢献することができる。
3. 地域、国際社会における様々な問題に挑み、これらの問題に対処するための高度な課題発見・解決力及びコミュニケーション力を有している。

【博士・博士後期課程】

1. 豊かな学識を有し、各専攻分野の高度な専門的知識・技能を身につけ、自立した研究者としての独創的な研究遂行能力または高度な専門性が求められる職業に従事する卓越した研究能力を有している。
2. 社会的責任感に基づく高い倫理観を有し、指導的役割を担い、人類、社会及び学術の発展に貢献することができる。
3. 地域、国際社会を俯瞰する広い視野を持ち、これらが直面する様々な問題に対処できる専門的かつ高度な課題発見・解決力及びコミュニケーション力を有し、専攻分野の研究を先導することができる。

1 4. 実務経験の有無

実務経験のある教員による授業とは、「担当する授業に関連した実務経験を有している教員が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目」を指します。当該科目に関連する実務経験（企業、公務員、教員、その他）がある場合は「有」を選択してください。本学が高等教育無償化制度の対象機関と認定されるには、実務経験者が担当する授業が一定数以上必要なため、実務経験がある場合は、「有」を選択してください。

オムニバス形式で企業等からゲスト講師を招いたり、授業の一環として学外でインターンシップや実習等を行う場合なども「実務経験「有」」に該当します。

1 5. 実務経験と授業科目の関係性

「実務経験の有無」に関連し、実務経験をこの科目にどのように活用するかについて記述してください。

(例)

- ・実務経験のある教員の場合：小学校教員経験を持つ教員が、その経験を活かして、小学校内の課題（いじめ問題、不登校等）への対応を指導する。
- ・教員は実務経験者ではないが、オムニバス等で実務経験者がゲスト講師として授業に関わる場合：県庁の産業振興立案担当者が、具体的な課題や政策立案の進め方を講義する。
- ・実習やインターンシップ等が授業に含まれる場合：当該企業の製造過程の見学と体験を通じ、効率的な生産システムについて学ぶ。

16. 授業計画

学生が、講義全体の流れをつかめるよう具体的な授業内容について記述してください。学務支援システムのシラバスは、必要に応じ授業計画を適宜変更できるようになっています。勿論、当初のシラバス通りに講義を進められることが望ましいのですが、学修効果を高めるため、講義の進捗状況や学生の理解度等に対応し、変更することも可能です。ただし、その場合、必ず学生に変更することを事前に周知してください。

以下の点に留意して計画を立てるようにします。

- ・学年暦で定められた講義回数を想定し、各回のテーマや講義内容、キーワード等を分かりやすく示す。
- ・「到達目標」や「成績評価基準」と矛盾のないようにする。
- ・計画は詰め込みすぎないよう無理のない進度で進められるよう注意する。

(1) 回

7.5回（講義1単位）、15回（講義2単位）など、必要な回数に分け、各回の授業内容や予習・復習内容等を記述してください。なお中間試験等のみで、授業1回分とすることはできません。

(2) 授業内容

授業内容・授業の進め方等が分かるように、授業の概要や、到達目標に対応して詳細に記述してください。なお、授業計画には、受講学生の自律的学修を促す観点から、次の要件を満たしていることが求められます。

- ・到達目標に対応して記載されていること。
- ・各回のテーマが具体的であること。
- ・わかりやすい「流れ」であること。
- ・計画的予習が可能であること。
- ・妥当な学修量であること。

(3) 予習・復習内容

大学設置基準で定められている「1単位あたり45時間の学修」（講義）に基づく単位の実質化を図るため、各回について必要な予習・復習内容を記述するとともに、可能であれば必要な学修時間も記述してください。

とくに、授業以外での自学自習を促すため、必要な時間又はそれに準じる「具体的な」自習内容を記載してください。

(良い例)

- ・当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなど、復習に励むこと。
- ・当該授業部分の英訳をしておくこと。さらにリスニング力をつけるため、自主的に英語

(例えば海外ニュース)を聴く時間を確保すること。

- ・講義中に示した教科書の指定範囲を事前に熟読し、社会情勢や事項について事前に調べておくこと (2 時間)
- ・指定した範囲の英文を和訳すること (1 時間)
- ・授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること (1.5 時間)
- ・授業後に小レポート (A4 用紙 5 枚以上) を作成し、次回授業で提出すること (2 時間)

(悪い例)

- ・「特になし」、「特別な準備は必要ない・・・」
- ・教科書の予習をすること→ 具体性を欠く。学修量・学修時間も不明確。

(4) 備考

授業の実施にあたって、学生に伝えるべきことがあれば記述してください。

(記入例)

- ・パソコンを毎回持参してください。
- ・授業の内容によって教室を変更する場合があります。その場合、事前に連絡します。